小学校社会科における社会認識形成を促す思考支援に関する研究
－自己の学習過程を外化することに焦点を当てて－

学校教育専攻
授業開発コース　　指導教員　川上　綾子
西川　栄展

1　主題設定の理由と研究の目的

社会科授業について、“知識・理解”を保障していない活動主義や暗記学習に陥りがちとの指摘がある。それらの要因として、個の頭の中の考えや知識習得の状況が見えにくく捉えにくいために、個の学びについての具体的な支援の手立てを明らかにすることができなかったことが考えられる。そこで、本研究では、個の学びを支援するために、個の学習過程を外化させることに焦点を当てた。また、社会科学力について、知識の構造に着目し、事実的知識からより上位の知識（概念的知識）へと知識の質を変容させることを社会認識形成、すなわち知識の構造化を促すことであると捉え、それに向けた思考支援ツールとして概念地図を活用した。概念地図を思考支援のツールとして活用することは、社会的事象どうしを互いに関係づけるなどの思考操作を促すことができたり、事象間の関係性を視覚化できたりするよさがある。

以上のことから、概念地図を、個の学習過程を外化させ社会認識形成（知識の構造化）を促すための思考支援ツールとして活用することの有効性を授業実践を通じて検証し、具体的な支援の方法を明らかにすることを目的とした。

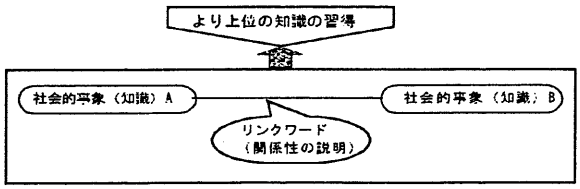

図1「知識の構造化」のモデル

2　研究1

児童の社会科学習に対する意識や自己評価の実態調査、および概念地図と記述文の実態から、主として次の示唆が得られた。

(1) 思考操作を促すためには、児童自身が構造的な概念地図を構成していく必要がある。

(2) 相互作用を促すためには、概念地図を媒介にした小集団での話し合いが有効である。

(3) 知識の構造化を進めるためには、概念地図を活用して自己モニタリングを促進させる必要がある。

3　研究2

研究1の示唆をもとに、概念地図を思考支援のツールとして活用するために、教師がとるべき4つの基本方略を構想した。

【方略①】「構造的な概念地図の構成」

○事象間の関係性の説明として、リンクワードを意識して書かせた。

【方略②】「概念地図を媒介にした話し合い」

○グループ学習の際、視覚的な効果を利用し、互いの考えの違いや共通点を明確にさせた。

【方略③】「自己モニタリングの促進」

○自分の概念地図を加筆・修正させた。

【方略④】「キー概念の固定化と形式の統一」

○キー概念を固定化し、3つの授業過程（個人学習、グループ学習、全体学習）で同一の概念地図作成用ワークシートを使用させた。

また、これらの方略を児童に分かりやすく示し学び方を習得させるために、学び方ガイドラ

インとして、「調べる学習（資料の活用の仕方）」「考える学習（概念地図の描き方）」「話し合う学習（グループ学習の進め方）」を提示した。

4　研究3

研究2で構想した基本方略をもとに、概念地図の描き方やそれを活用した話し合いについての指導を兼ねた一単元の授業実践を行い、概念地図を活用した外化が思考支援の方略として有効かどうかを検証した。

その結果、事象間の関係性をリンクワードに書くという意識づけができ、学び方が定着してきた。しかし自分の概念地図を活用して説明することに難しさを感じている児童もいること、概念地図の視覚的な効果による他者モニタリングの促進は明らかにできなかったこと、概念地図の加筆・修正を促進することと上位の知識の習得との因果関係は明らかにされなかったことが、課題として残った。

5　研究4

研究3の結果を踏まえた新たな方略をもとに、研究3と同じ学級を対象に一単元の授業実践を行い、概念地図を活用した外化が思考支援の方略として有効かどうか、再度検証した。また、グループ学習における児童間の相互作用の状況や授業過程を通した個人の知識の構造化の変容について質的な分析を行うとともに、授業実践を通した総合的な分析を行った。その結果、主として次のことが明らかになった。

(1) キー概念を固定し追加概念との間のリンクワードを意識して書き込むことは、それらの間の関係性を考えやすくなり、社会的事象に解釈を加えようとする意識が促される。

(2) 概念地図を媒介にすれば、その視覚的効果によって説明者の話し言葉（音声言語）による説明力の不足を、概念地図上の表現（文字言語と図式表現）が補うことができる。

(3) キー概念を固定し形式を統一した概念地図を活用することで、自分と他者の考えの違いや共通点を明確にできるようになり、他者との考えの比較や他者モニタリングの促進がなされたり、互いの知識を共有したりすることができる。

(4) 概念地図を活用した学習を積み重ねることで、概念地図を思考支援のツールとして活用する学び方が定着し、記述文の構成に概念地図を活用することができるようになる。

(5) グループ学習で概念地図に加筆・修正した知識の上に、全体学習でさらに多くの相互作用で吟味した知識を取り入れることができれば、知識の構造化が促進される。

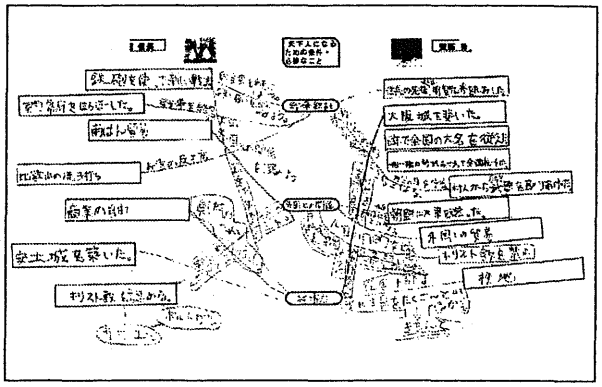

図2　児童が構成した概念地図（全体学習後）

6　研究のまとめと課題

個の学習過程を概念地図に外化させ、思考支援のツールとして活用するためには、教師が目標分析を十分に行い、知識の内容と知識の習得過程を明確にした上で授業構成を行うことがきわめて重要である。

また、実践上の課題として、自力でリンクワード等を加筆・修正するといった自己モニタリングする力の個人差に対応することが挙げられる。特に、児童による概念地図の構成を支援するためには、さらに概念地図作成用ワークシートの形式や提示の仕方を工夫する必要がある。